

朝日遺跡だより

2022年6月
vol.5

新年度を迎えて
振り返りレポート／企画展「一色青海遺跡 —100年の弥生ムラ—」
弥生ムラづくりプロジェクトレポート
ショップグッズ紹介
古代体験プログラムのお知らせ
連載／ミュージアムスタッフのこぼれ話
2月～5月のできごと
シリーズ／ミュージアム収蔵品ファイル
アカとクロがレポートするミュージアムの見所
お得な共通チケットのごあんない

あいち朝日遺跡ミュージアムへ おでかけの方にお得なお知らせ

2施設来場でお得な「共通チケット」のごあんない

弥生時代 あいち朝日遺跡ミュージアム



観覧料
常設展も
観覧できます

区分	一般	大学生・高校生
個人	300円	200円
団体 (有料20名以上)	250円	150円

※学校行事（高校以下）及びその引率者、中学生以下、障がい者の方及びその付き添いの方（1名まで）は無料

●愛知県清須市朝日貝塚1番地
●TEL/052-409-1467
●開館時間/9:30~17:00
●駐車場/15台
●休館日/月曜日
※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日



戦国時代 清洲城

※あいち朝日遺跡ミュージアムより
清洲城まで徒歩約10分



入館料

【大人】	300円
【小人】	150円
(小中学生) ※幼児無料	

●愛知県清須市朝日城屋敷1-1
●TEL/052-409-7330
●開館時間/9:00~16:30
●休館日/月曜日
※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

あいち朝日遺跡ミュージアム
清洲城 共通チケット
2施設で計600円を **500円** 発券より半年間有効



古墳時代 体感!しだみ古墳群ミュージアム



展示室
入館料

【一般】	200円
※中学生以下無料	

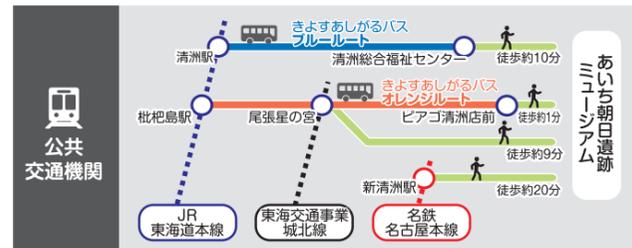
●名古屋市守山区大字上志段味字前山1367
●TEL/052-739-0520
●開館時間/9:00~17:00
●休館日/月曜日
※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

あいち朝日遺跡ミュージアム
体感!しだみ古墳群ミュージアム 共通チケット
2施設で計500円を **400円** 発券より半年間有効



共通チケットは、各施設の窓口でご購入いただけます。

AICHI ASAHI SITE MUSEUM あいち朝日遺跡ミュージアム



名古屋第二環状自動車道「清洲東IC」から約1分
清洲公園駐車場もご利用いただけます。
駐車場の数には限りがあります。出来る限り公共交通機関のご利用をおすすめします。

新型コロナウイルス感染防止対策のため、入館時のマスク着用および、検温と手指消毒をお願いします。
また状況に応じて、館内の一部閉鎖および関連イベントを中止する場合があります。
詳しくは公式WEBページにてご確認ください。



新年度を迎えて

2022年度がスタートし、あいち朝日遺跡ミュージアムも2度目の春を迎えました。この度の人事異動で第2代の館長になりました洲崎と申します。

当ミュージアムは、東海地方を代表する弥生時代の遺跡「朝日遺跡」の魅力発信する施設として、2020年11月に開館しました。見どころは、館内に展示されている銅鐸や円窓付土器、赤彩土器など国の重要文化財「朝日遺跡出土品」や、弥生時代の生活の様子をわかりやすく再現したアニメ映像やジオラマです。また、年間を通じて火起こし体験など「古代体験プログラム」を用意しているほか、屋外に復元された当時の建物や水田、環濠などを通して、弥生時代の生活を体感することができます。

今年度も「一色青海遺跡—100年の弥生ムラ—」を始め4回の企画展、「弥生ムラづくりプロジェクト」、さらに

各種イベントの実施など、様々な企画を通じて朝日遺跡が持つ魅力を余すところなく発信してまいります。

この「朝日遺跡だより」も、表紙のデザインを新しくしました。マスコットキャラクター「アカとクロ」が毎回登場し、四季折々のミュージアムの景色を案内してくれます。

これからもスタッフ一同、来館していただいた皆様方に満足していただけるよう努めてまいります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

あいち朝日遺跡ミュージアム館長
洲崎和宏

1992年 県立学校教諭として就職
1999年から、県の埋蔵文化財調査及び文化財保護の担当者として、県立学校と県文化財関係機関を行き来する
2022年 愛知県埋蔵文化財調査センター所長兼あいち朝日遺跡ミュージアム館に就任



企画展写真

編組製品

さて、一色青海遺跡が営まれた弥生時代中期末（紀元前1世紀）には、急速に湿潤（寒冷）化が進むなど、大きな気候変動があったことがわかってきました。この時期は、朝日遺跡でも集落のあり方が大きく変化しました。気候変動による環境変化が弥生時代の人々の生活や社会にどのような影響をあたえたのか、その詳細を解明していくうえで、一色青海遺跡や朝日遺跡は重要な意味をもつ遺跡といえるでしょう。（原田 幹）



カゴの拡大

壺とシカが描かれた土製品

企画展 振り返りレポート

企画展 **一色青海遺跡** 期間 2022年4月29日（土）～ 6月26日（日）
場所 あいち朝日遺跡ミュージアム本館・企画展示室
— 100年の弥生ムラ —

令和4年度春の企画展は、稲沢市の一色青海遺跡を特集した展示を開催しました。

一色青海遺跡は、県道の建設、日光川上流浄化センターの建設及び拡充事業にともない、1990年代から愛知県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施してきました。これまでの調査面積は約4万㎡に及び、弥生時代集落のほぼ全容が明らかになっています。この集落は、紀元前1世紀を中心とする100年程しか続きませんが、主軸が17.6mもある巨大な掘立柱建物をはじめ、注目される資料が多数出土しています。濃尾平野の拠点的な集落の一つとして、弥生時代の社会を知るうえでも重要な遺跡です。

この企画展では、約80点の出土品を展示しました。なかでも注目されるのは、シカが描かれた土製品です。一つは筒形土製品と呼ばれる容器で、赤い顔料（ペン

ガラ）で、縦に連続する6頭のシカが描かれています。もう一つは、土製の垂飾（ペンダント）にシカが線刻されています。

また、低地に立地している一色青海遺跡では、木製品も良好な状態で遺存していました。とくに編組製品（カゴなどの編み物）やその素材までもが残り、土ごと取り上げられ保存処理が施されています。観覧した方からは、現代と変わらない編み物の技術に驚いたという感想をいくつもいただきました。



特別企画展ポスター

弥生ムラづくりプロジェクト レポート

体験水田での稲作をとおして古代米の田植えから石包丁を使った稲刈りまで弥生体験を実践しています。



土器炊飯を実施しました! 2022年 2月20日（日）



弥生ムラづくりプロジェクトの集大成ともいえるイベント、土器炊飯を2月20日（日）に開催。体験水田での田起こし、田植えからはじまり石包丁で収穫、脱穀したお米を、炊飯用に焼成した土器で炊飯に挑戦。火はもちろん火起こし器から。火がついてから30分ほどで出来上がり、うまいかどうか心配していましたが思った以上に上手に炊け、ムラづくりプロジェクトの参加者や当日の来館者にも試食していただき好評でした。また来年もご参加お待ちしております。

ボランティアガイド 2022年 3月開始



3月よりボランティアガイドさん「おもてなしムラ人」がご案内を開始。このボランティアガイドには、地元の重要な史跡・朝日遺跡を盛り上げたいという熱意のある方々が集まり、朝日遺跡の知識ほぼゼロの状態から研修を重ねて、対応されています。皆さんとても勉強熱心な方々です。現在は土日を中心にキッズ考古ラボでご質問にお答えしたり展示の解説補助を行っています。皆さんの質問がガイドをさらに成長させてくれると思っておりますので是非お気軽にお声がけください。

ショップグッズ紹介

【巴型銅器マグネット】

巴型銅器は、盾に取り付けることで、敵から身を守ってくれるお守りとして使用されたと考えられています。当館ではマグネットを取り付けて、いつでもどこでも悪を追い払ってくれる巴型銅器マグネットとして現代に復活させました。少量生産のため、入荷には時間がかかります。気になる方はぜひお早めに買い求めください。

巴型銅器マグネット ¥500 (税込)



古代体験プログラムのお知らせ

土・日・祝 開催 会場: 本館・体験学習室

※2022年7月2日(土)から9月25日(日)までの土・日・祝日に開催(各日1回)
※当日ミュージアム受付にてお申し出ください。(事前予約はできません)

2022年 7月限定メニュー

高坏を作ろう

■時間/15:00～(60分)

教材費
300円
各回先着
10人



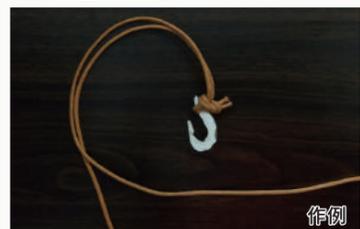
作例

2022年 8月限定メニュー

シカ角アクセサリを作ろう

■時間/15:00～(60分)

教材費
100円
各回先着
10人



作例

2022年 9月限定メニュー

おうちで焼ける! 土器づくり

■時間/15:00～(60分)

教材費
600円
各回先着
10人



作例

連載 (シリーズ5)

ミュージアムスタッフのこぼれ話

ミュージアムの中に「キッズ考古ラボ」という部屋があります。しかしこの部屋はキッズだけのものではないんです、というお話を。たとえば貝殻や竹串を使っての「土器文様付け体験」は土器作りの工程、文様付けの作業を楽しめます。しかし何も無いキャンパスに模様を描いてみる難しさ、実際の土器を見返すと、弥生人の職人技に感服。また、きれいな状態で出土した朝日遺跡の木製品。これを本物と同じ材質で復元した農具は手に取ることができ、用途によって木材を使い分けた経験的な知恵に感心します。さらに、朝日銅鐸を鳴らしてその音が聞けるなんてことも復元品ならではの。原寸大で再現された青銅器の銅鐸自体、目にするのも珍しいのではないのでしょうか。



土器片

復元した弥生時代の道具

ほかには、出土した土器片をいくつか展示。こちらも手に取って重さ、厚み、色、文様の違いなど欠片から触感で土器のイメージができます。

そんなガラスケース越しでは伝わらないことを、触ったり、描いたり、聴いたりできるのがこのキッズ考古ラボ。「子どもの部屋なのね」と通り過ぎず、ぜひ展示の観覧とセットでお入りください。

(指定管理者 宇井)



土器文様付け体験



復元した朝日銅鐸

イベント

「体験弥生ムラ」

- 日時: 2022年3月5日(土)
- 場所: あいち朝日遺跡ミュージアム
- 内容: 弥生時代を体感できるイベントとして、「体験弥生ムラ」を開催しました。勾玉作りや火起こし、アンギン編み体験、土器炊飯を通して弥生時代を体験してもらおうと共に、バックヤードツアーや、考古相談会で弥生時代の知識を深める1日となりました。また、当日は出店ブースやキッチンカーも展開し、1日楽しめるイベントとなりました。



「弥生こどもの日」

- 日時: 2022年5月4日(土)
- 場所: あいち朝日遺跡ミュージアム
- 内容: 今年の「弥生こどもの日」は「活動」をテーマに、様々なイベントを実施しました。「弥生こども劇場」では、立ち見をされるお客様も多く、定員の約2～2.5倍のお客様に観劇いただくことができたほか、劇中にあったクイズもとても盛り上がりました。また、出店ブースでは「体感! だみ古墳群ミュージアム」の缶バッジづくりや「歴史の里マイスターの会」の道輪づくりの講座も開催され、たくさんのお客様が楽しまれていました。



体験講座

「お菓子づくりで楽しむ朝日遺跡」

- 講師: 渡辺康子 (御菓子処わたなべ)
- 日時: 2022年2月6日(日) 午後1時30分から午後3時30分まで
- 場所: あいち朝日遺跡ミュージアム 本館・研修室
- 内容: 古代を代表する装飾品「勾玉」をモチーフに、「ねりきり」を作りました。



「弥生マンガ教室」

- 講師: 棚園正一 (漫画家)
- 日時: 2022年3月12日(土) 午後1時30分から午後3時まで
- 場所: あいち朝日遺跡ミュージアム 本館・研修室
- 内容: 清須市出身の漫画家、棚園正一先生を講師に招き、朝日遺跡をテーマにしたマンガの製作を子どもたちに体験してもらいました。



「田起こし体験」

- 講師: 原田幹 (本ミュージアム学芸員)
- 日時: 2022年5月4日(水・祝)
- 場所: あいち朝日遺跡ミュージアム 体験水田
- 内容: 弥生時代の田んぼを復元した、体験水田で、木製農具を使って田植えの準備「田起こし」を行いました。



企画展「弥生人といきもの2022 シカをねらえ!」開催のお知らせ

会期: 2022年7月23日(土)～9月19日(月・祝)

弥生人といきもの関係を紹介する、夏の子供向け展示の第2弾。今回は弥生人にとって最も大切な動物だったシカがテーマです。弥生人は弓矢でシカ狩をし、シカの角や骨で様々な道具やアクセサリを作り、シカの骨で占いもしていました。シカが描かれた弥生土器や銅鐸も見つかっています。今年もクイズを解きながら、シカをとおして見えてくる弥生時代の姿に触れてみてください。



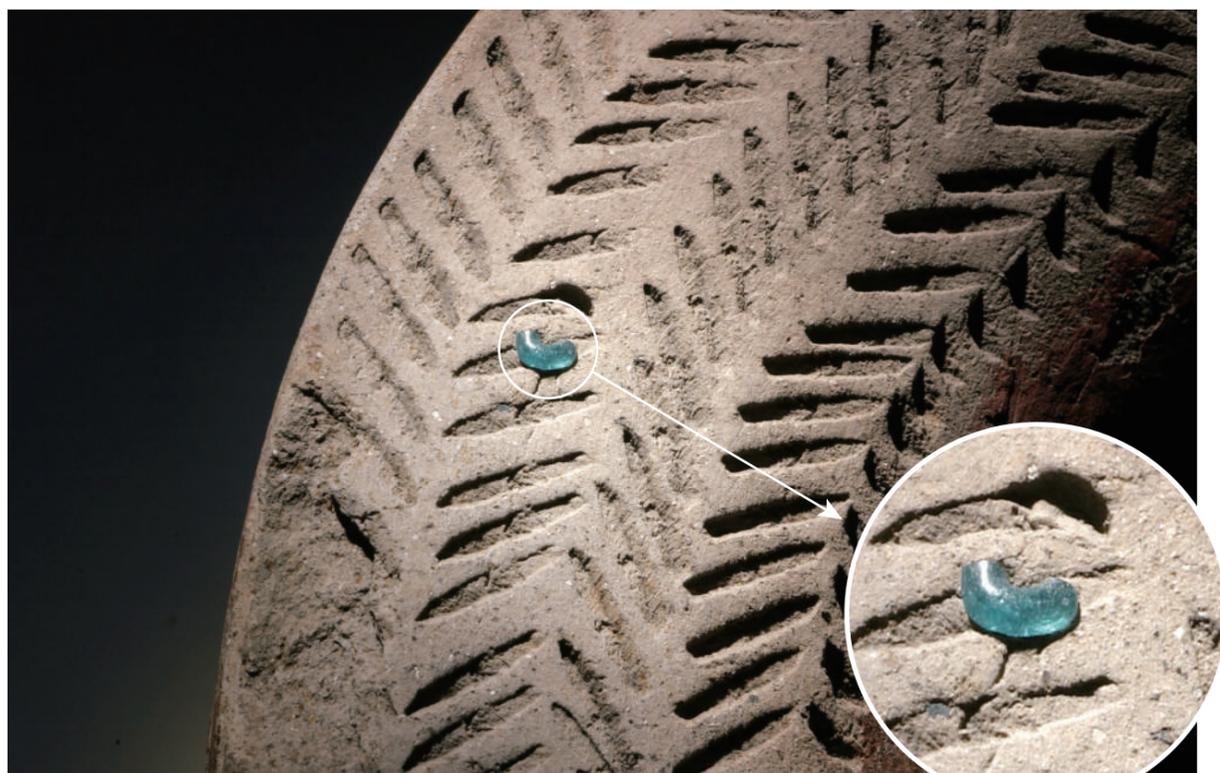
講座ヒストリーカフェ

「貝殻山貝塚に暮らした人々」

- 講師: 原田幹 (本ミュージアム学芸員)
- 日時: 2022年2月20日(日) 午後1時30分から午後2時30分まで
- 場所: あいち朝日遺跡ミュージアム 本館・研修室
- 内容: 貝殻山貝塚の出土品を通して、弥生時代初期にこの地に移り住んできた人々の生活や交流について掘り下げるとともに、企画展の見どころについて紹介しました。



ガラス小玉が埋め込まれた壺



土器の全体写真 展示室を撮影

ガラス小玉の拡大

今回は、ガラスのビーズが埋め込まれたとても珍しい土器を紹介します。

この土器は、赤彩土器（パレス・スタイル土器）の壺の口縁部の破片です。形や文様の特征から、弥生時代後期～終末期（1～3世紀頃）に製作されたものとみられます。

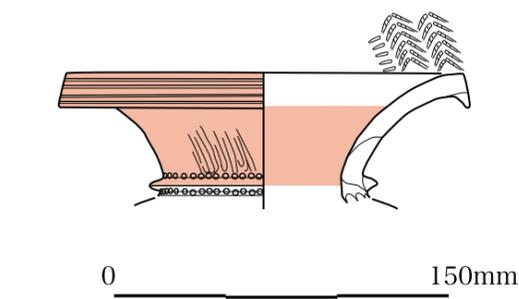
土器の口縁部にクシ（あやすき）状の文様が描かれています。その文様に重ねるように、青色のガラス小玉（ビーズ）が埋め込まれています。よくみるとこの小玉は、半分ほどに割れた破片です。近くには同じような形の凹みがあることから、もともと二つに割れた小玉を対にして埋め込んだものの、一つははずれてしまったようです。

小玉は土器の文様の上から埋められています。おそらく土器が完成してすぐ、乾燥して堅くなる前のタイミングで埋め込まれたのでしょう。その後土器は火にかけて焼かれました。現代の陶磁器のように高温で焼かれたらガラスも溶けてしましますが、弥生土器は800℃ほどの低い温度で焼かれるため、ガラス小玉は溶けずに埋め込まれたまま残りました。

さて、ガラスは弥生時代に大陸からもたらされた新しい技術で、主に装身具として使われました。このガラス小玉のように、数ミリ程度の小さなものでも、当時はとても貴重なものでした。しかし、このように土器にガラスが埋め込まれたような例は、日本では他に知られていません。この土器が唯一の事例となっています。

誰がガラス小玉を土器に埋め込んだのでしょうか。土器を作った人、あるいは別の人の人なのか。その理由は、単なる思いつきかいたずら心か、それとも何かガラス小玉に纏わるエピソードがあったのでしょうか。もし対になるもう半分の破片がそろったら…。そんなことに思いを馳せてみるのも楽しいですね。

（原田 幹）



土器実測図



朝日遺跡マスコットキャラクター「アカ」「クロ」

アカとクロがレポートするミュージアムの見所（屋外編その5）

学芸員に聞こう!



前に紹介した田んぼ（体験水田）と竪穴住居の間には、もう1棟建物が建っているよ。この建物は何だろう？

これは「高床倉庫」という建物だよ。地面に直接柱を立て、床が高く作られているのが特徴で、弥生時代に広まった建物なんだ。



床が高いところにあると出入りするのに不便なような。何に使う建物なのかな？

床が高いので、この復元建物のように、ハシゴをかけて出入りしていたよだね。

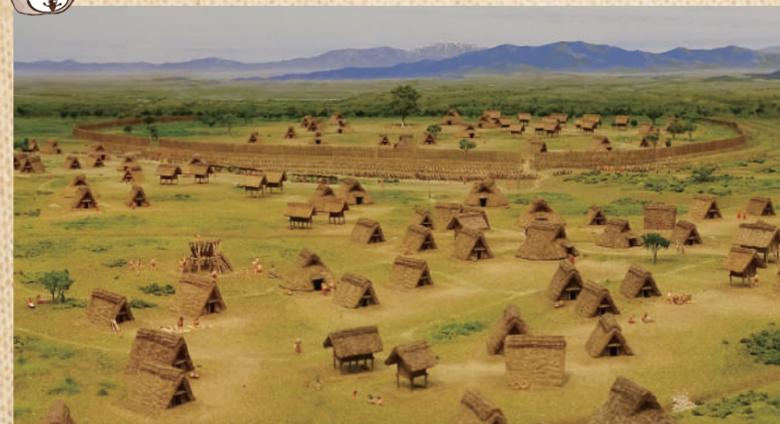
名前のとおり倉庫、とくに収穫したイネなどの穀物を蓄えるための建物だと考えられている。床が高いことで風通しがよくなり、中身を湿気から守ることができた。また、ネズミなどの獣害からも守ることができたんだ。



復元された高床倉庫（本ミュージアム内）

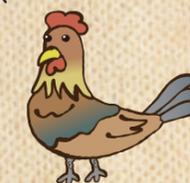


ずいぶん小さな建物だけど、そんなにたくさんものは入らなかったのかな。



集落に点在する高床倉庫の様子（模型）（本ミュージアム展示室内）

弥生時代の高床建物には5㎡ほどの小さなものから100㎡もある大きなものまで、さまざまな大きさのものがみつっている。ミュージアムに復元されている建物は、小さなサイズの遺構を元にしてのんだ。ちなみに企画展で紹介されていた一色青海遺跡では90㎡近くある巨大な建物が見つっている。これは、単なる倉庫ではなく、神殿や首長の居宅など、特別な意味を持った建物だったのかもしれない。



ところで、ミュージアムの高床倉庫は、体験水田の近くに建てられている。ここで収穫されたお米や農作業に使う道具をしまっているんだよ。



ほんとだ。復元しただけでなく、実際に倉庫として使っているんだ。



今回も朝日遺跡に詳しい学芸員の方に話を聞いたよ



原田 幹（あいち朝日遺跡ミュージアム学芸員）